

3号機R/Bトーラス室滞留水水位の連通性低下について

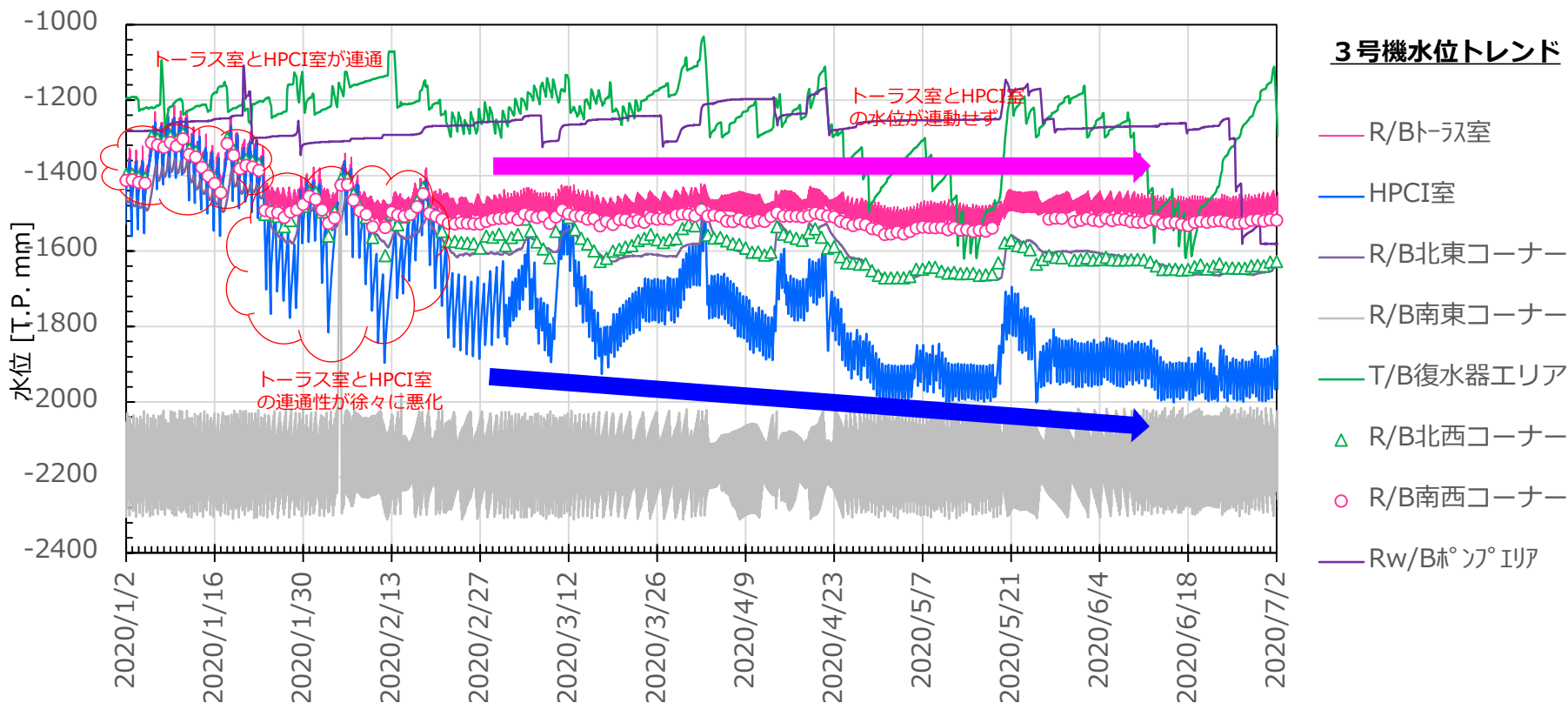
2020年8月18日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 概要

- 建屋滞留水は計画的に水位低下を進めており、3号機R/Bは、これまでHPCI室に設置した滞留水移送ポンプにてR/B全体の水位低下を進め、T.P.-1,800程度まで水位を低下※。
※ 南東三角コーナーについては、他エリアとの水位連通が緩慢になったことを確認したため、仮設ポンプを設置
- しかしながら、HPCI室とトーラス室の水位連通が徐々に緩慢になり、トーラス室は他エリアより高い-1,500付近で停滞傾向※となったことを確認。
※ 南東三角コーナー以外の三角コーナーも同様に水位が停滞（トーラス室を介してHPCI室と連通しているため）

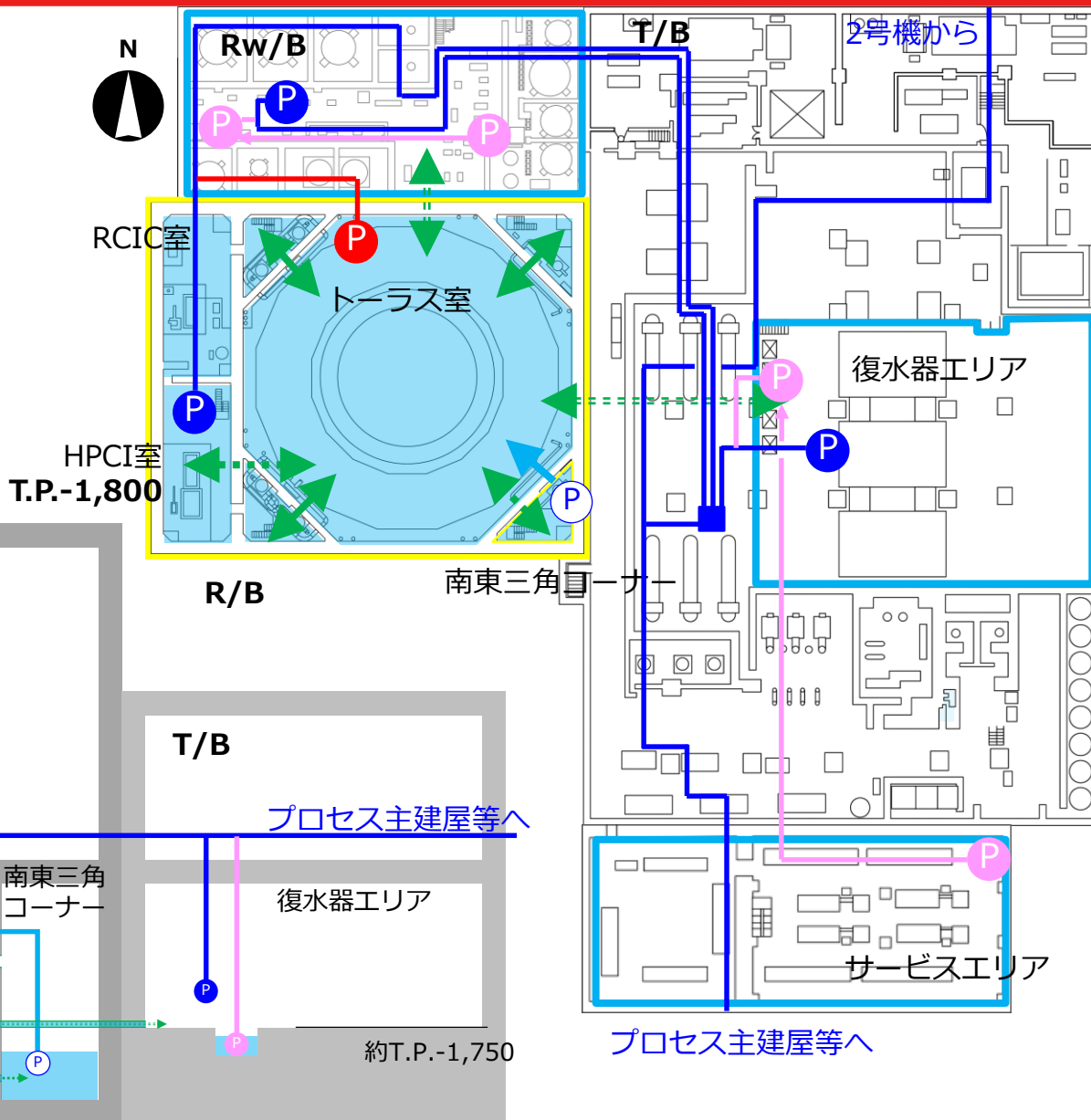


2. 今後の対応

- T/B,Rw/B滞留水水位はT.P.-1,400付近であることからR/Bトーラス室（T.P.-1500付近）とは水位差があり、R/BとT/B、Rw/Bの連通性もほとんどない状況。
そのため、トーラス室水位にかかわらず、T/B、Rw/Bの床面露出維持は可能と判断できるが、下記の懸念は残るため、早期（2020年内）に当該エリアへポンプを設置する。
 - ✓ R/Bトーラス室水位の方が高く、連通性が良くなった場合、R/B滞留水が継続的に床面露出したT/B、Rw/Bに流出する可能性
 - ✓ サブドレン水位もトーラス室水位に水位差を考慮した設定となるため、当初計画より高めとなり、地下水流入量抑制効果が減少

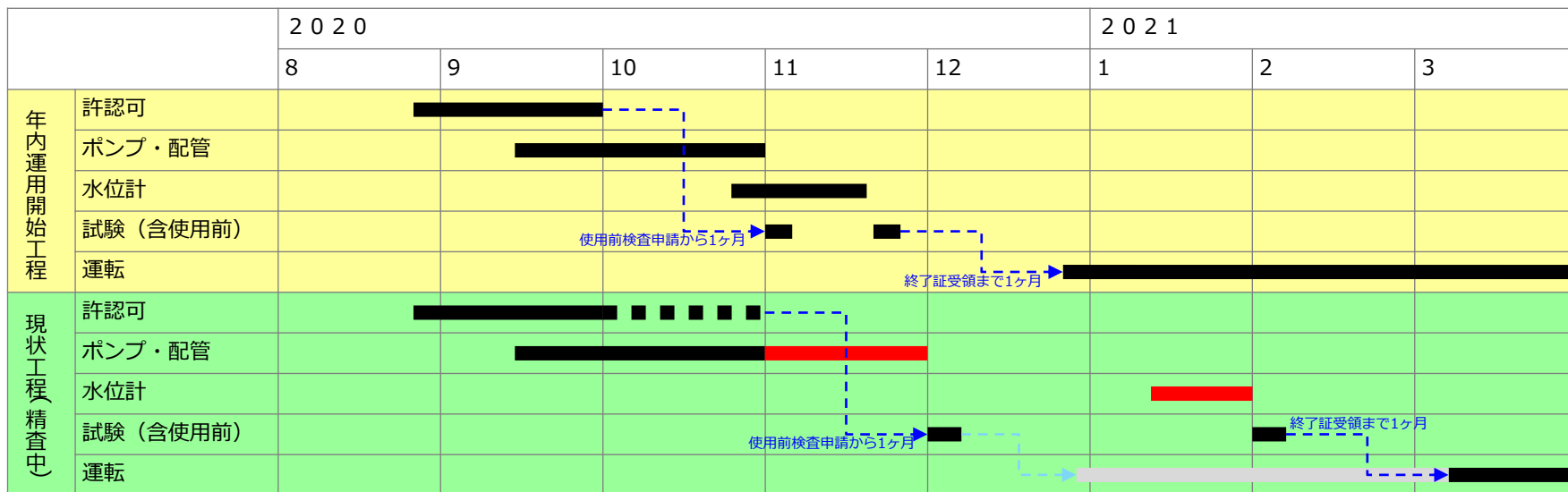
【参考】3号機R/B平面図、立面図

- P 滞留水移送ポンプ（既設）
- P 滞留水移送ポンプ（設置中）
- P 滞留水移送ポンプ（今回追設）
- P 仮設移送ポンプ
- 滞留水移送ライン（既設）
- 滞留水移送ライン（設置中）
- 滞留水移送ライン（今回追設）
- 仮設移送ライン
- 連通
- - - 連通緩慢
- ⇄ ほぼ連通なし



3. ポンプ設置方針

- 7/3の規制庁面談でのコメントを受け、本件は実施計画変更申請をし、早期に認可を頂くことで、2020年内にポンプ運転開始できるよう、工程を精査中。
- ポンプ設置及び運用開始（手動操作による運用）は2020年内に実施出来る見込みであるが、滞留水移送装置と同等の仕様（自動制御による運用）まで仕上げるためには、水位計追設および制御装置ロジック変更が必要となるため、2021年2月頃となる見込み。



- 本件は実施計画変更申請が必要であることから、使用前検査も踏まえて、2020年内に運転（試運転を含む）を開始する必要があるため、以下に対応方針案を示す。
 - ① ポンプ・配管の1号検査のみ実施した後、試運転による滞留水処理を実施
 ※12月から試験運転を開始し、3号検査は2021年2月頃に受検
 - ② ポンプ・配管と水位計の検査を分けて実施(使用前検査申請を分割)
 ※ ポンプ・配管の1号検査・3号検査を2020年11月頃、水位計の1号検査・2号検査は2021年2月頃受検
 - ③ A系のみ12月に間に合うよう1号～3号検査を実施(既設の監視用水位計を制御用水位計として使用)
 ※B系は水位計が追設された後、2021年2月頃に受検